大分二番手の男は、
西洋の先端技術と日本の心で暦を近代化し、
月に名を残した。「クレーター・アサダ」。
―その天文学者、じつにハイカラ・ジャパネスク



麻田剛立

230年前の杵築藩
（大分県杵築市）、
ならわしや言い伝えが
重んじられた侍たちの時代に、
西洋の考えや望遠鏡を取り入れ、
暦を近代化する事となる
天文学者がいました。
日食をぴたりと言い当て、
日本初の月面観測図を描く一方で、
名声を欲さず後進の指導と観測に
人生をかけた剛立。
ロマンチストでリアリスト。
新しくあり古くもある。
そしてカリスマ性を持ちながらも
いつも二番手であろうとした彼の
数々の功績は今、
世界屈指の天文学者として
夜空に残されています。
「クレーター・アサダ」。
地球から38万km、
剛立が寝食を忘れ
魅せられた月の、
クレーターの一つに

Goryu Asada



ゴーリュー・プロジェクト
―その天文学者、ハイカラ・ジャパネスク
http://www.goryu.net